

学校概要

創立 17 周年	学校長 酒井 浩明	副校長 仲川 由佳理	学期 2 学期制	児童・生徒数 901 人
学級数 一般級: 26 個別支援級: 4		主な関係校: 中山中学校・中山小学校・上山小学校		

学校教育目標

「自分大好き 友だち大好き 共に学ぶ子 実践する子」

- 自分の考えをしっかりと持ち、困難なことにもあきらめず、自ら進んで学習する子を育てます。(知)
- 人に対して優しく思いやりを持って行動し、人の心の痛みのわかる子を育てます。(徳)
- 基本的な生活習慣を身に付け、健康の保持増進を図ると共に、命あるものを大切にしようとする子を育てます。(体)
- 地域の環境や人を大切に、進んで人のためになる行動の取れる子を育てます。(公)
- いろいろな人とのコミュニケーションを大切に、よりよい生活について考える子を育てます。(開)

学校の特徴

- 学区は、区役所を中心とする創立前からの住宅地とともに、創立前後に造成された住宅地で構成されている。また、学区内には県立公園もあり、緑豊かな地域である。学習の中に活用できる材が豊富である。
- 保護者のボランティア活動も盛んであり、地域からも子どもたちの活動への多くの協力が得られる。
- 人権教育を基盤として、特別支援教育を柱にし、全教職員が児童理解を大切にした丁寧な指導を進めている。
- スタンダードをはじめとして、全教職員による児童指導を重ね、落ち着いた学校生活が送れるようになってきた。
- 子どもたちの自尊感情・自己有用感を高める必要がある。

学校経営中期取組目標

- 子どもたち一人ひとりに向き合い、「ひと」や「まち」とのかかわりを大切にした、活力と魅力あふれる学校づくりを進めます。
- ・子ども同士の関わり合いと認め合いを育む学習活動を展開します。
- ・特別支援教育の視点を大切に、問題解決学習型の授業づくりに取組み、進んで問題を解決していく意欲を高めていきます。
- ・家庭・地域・関係諸機関との連携をより一層強め、子どもたちの心に自尊感情・自己有用感を高めるように取り組んでいきます。
- ・楽しみながら学べる体育学習の充実を図ります。
- ・全教職員が互いに学びあい、啓発し合って自らの力を磨いていく学校づくりを進めます。

小中一貫教育の取組

中山中	ブロック	中山中学校・中山小学校・上山小学校
9年間で育てる子ども像	○学習や生活の良い習慣を身につけ、あいさつを大切にすることも ○自らの考えを伝えたり、相手の考えを受け止めたりする豊かなコミュニケーション力をもつ子ども ○中山地区の街と関わり合いながら学び、「まち」を大切にすることも	
自校の具体的取組	・教育活動の中に人との豊かなかかわりを積極的に入れ込んでいく。 ・挨拶運動や花いっぱい活動、ボランティア清掃などへの児童の参加を一層進めていく。 ・授業研究会への参加を他校へも呼びかけ、本校の児童の様子を他校と共有しておく。 ・地域行事への積極的な参加を勧める。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	学年で共通した指導方法で指導し、言語活動を位置付けた自分の考えを表現する学習を充実し、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。	①基礎・基本をしっかりと身につけられるように学年で共通した指導方法で指導し、家庭学習も共通理解を図り取り組む。学年での教材研究の充実にも努める。 ②説明、報告、記録、対話、討論などの言語活動を授業の中でしっかりと位置づけ、自分の考えを表現・交流する授業を常に意識して展開する。話し合いによる授業を充実させる。 ③3・4年算数の少人数指導や「きらきら教室」を行い、理科支援員を活用することで、基礎・基本の学力の定着
豊かな心	挨拶やふれあいタイム等の豊かな体験活動で培った問題意識をいかした道徳の授業改善を進め、教職員の授業力の向上と、自分や他者を認める心の育成を目指す。	①自らあいさつができるよう子ども達の意識の向上を図り、実際に声を出してあいさつができるようにしていく。 ②花いっぱい活動、ボランティア清掃、稲作活動などへの児童の主体的な参加を大切に、人と人との豊かなかかわりの中で思いやりの心を育てる。 ③今年度も道徳を重点研究として取り上げ、道徳授業力向上に努める。年1回道徳の授業公開を全学級で行うとともに、授業を通して、自ら課題を立て自分のあり方を振り返り、友だちを認める心を育成する。
健やかな体	体育科の授業の充実と体力向上の実践の継続、保健や食育の指導との連携を図りながら、教育活動全体を通して健やかな体の育成を目指す。	①体力向上のために、1校1実践の長縄跳び、ラジオ体操の計画的な実践を継続する。 ②体力テストの結果等を家庭と共有し、長期休業中や日々の体力の向上に繋がる生活習慣の改善を図る。 ③食や体に関する関心を高めるために、学校保健委員会や給食週間、保健や食育の指導に取り組む。全校の取り組みが日常化するように努める。 ④外遊びの奨励とともに、体育の授業力を高めるための指導法・体育実技研修に教職員が取り組み、日常の指導に生かす。
特別支援教育	特別支援教育コーディネーターの教諭を中心とした特別支援教育の充実にも努め、わかりやすい授業を工夫すると共に、豊かな心をもつ子どもの育成に努める。	①児童支援専任、特別支援教育コーディネーター等を中心として特別支援教育の充実にも努め、ユニバーサルデザイン化した誰もが分かりやすい授業の展開を工夫する。 ②子どもの実態に基づいて計画的に「身につけた力」を付けられるように、個別の指導計画・支援計画の充実を図る。 ③無理のない交流により、個々の子どもの状況を受け入れられる豊かな心をもつ子どもを育成する。
児童生徒指導	特別活動や異学年交流を通じた心の教育を実践し、全職員でスタンダードを大切にした指導を行い、いじめのない落ち着いた学校づくりを目指す。	①全校遠足・運動会・交歓給食など、様々な機会をとらえてたてわり班活動を実践する。 ②専任教諭を中心に、児童の実態をことあるごと日常的に共有化し、全職員で対応ができるようにする。 ③森小スタンダードを確実に共通理解し、全職員が同じ方向性で児童と関わる。サイレントゾーンの日常化を図る。
地域連携	地域の教育力との連携と本物体験を重視し、児童や「まち」の実態を踏まえた学習の総合化を図り、特色ある教育活動の継続に積極的に取り組む。	①各学年における生活科・総合的な学習の時間の展開から、普遊び、花いっぱい運動、自然観察、田の学習など、地域の方たちに教えていただく場を継続的に設定していく。 ②引き続き児童の参加奨励を行い、地域行事に限らず、地域の方たちとの交流や連携について検討する。
いじめへの対応	本校のすべての子ども達が幸せになる権利を持っていることを全職員が共通理解し、いじめを見逃さない・許さない目をもちながら、温かい学級・学校を創る。	①いじめ防止に関わる研修会を重ね、学年研や児童指導・特別支援委員会などの中で、情報交換する場を設け、全児童を全職員で見守る意識を高める。 ②いじめの早期発見に努め、迅速な対応に努めるとともに、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用したり、朝会・集会・授業の中で指導したりすることで、いじめをしない・させない・ゆるさない風土を心の中に育てる。
人材育成・組織運営	主幹教諭や学年主任を中心とする組織的学校の運営を行い、経験の浅い職員等の育成のために、学年研や校内研修を活性化させるとともに、中山中を中心とする小中4校の交流連携を進め広い視野をもつ人材の育成を図る。	①市の施策や学校・職員の置かれた状況等の情報提供や研修を適宜行うこと、小中連携交流会等を大切にする。②視野を広げ、方向性を共有した活性化組織づくりと人材育成を行う。③経験豊富な教諭のよさを引き継いでいけるよう組織運営を工夫し、相互育成力や連携力を高め、ミドルリーダー等を育成する。④学級状況の問題を共有し、担任一人が問題を抱えることのないよう、学年や関係チームによる支援と連携に努める。学年研の充実を図る。